

大規模災害時の 「医療連携重要」

笠松町で講演会

国立病院機構本部D M A
T事務局の小井土雄一局長
が笠松町常盤町の笠松中央
交流センターで講演し、能
登半島地震での災害対応を
踏まえた医療、保険、介護
連携の重要性を語った。
小井土局長によると、能

登半島地震では全国から過
去最大、最多となる113
9の災害派遣医療チーム



災害時医療の連携について講演
する小井土雄一局長。笠松町常
盤町、笠松中央交流センター

(D M A T)が派遣された。
高齢化が進んで医療ニーズ
が多様化したことで「守備
範囲が広がっている」と指
摘。「在宅医療などの専門
家を本部に加え、指示して
もらうべき」と助言した。

講演は濃尾地域包括ケア
研究会と松波総合病院が開
き、医療、消防関係者ら約
60人が参加した。

(安井真由子)